

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	17	都道府県・指定都市名	石川県	研究課題番号・校種名	3(4)中学校
				領域名	E S D
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	かなざわだいがくにんげんしやかいがくいきがつこうきょういっくがくるいふぞくちゅうがつこう 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 (466人)				
所在地 (電話番号)	石川県金沢市平和町1-1-15 (076-226-2121)				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futyu/				
研究のキーワード	E S D, 思考力・判断力・表現力等の育成, 教科間のつながり, カリキュラムマップ				
研究成果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の「つながり」について、教科間で連携しようとする職員の意識が向上した。 ・複数の教科間で連携した、E S Dを題材とした具体的な授業実践を試みることができた。 ・生徒アンケートにおいて、「(E S Dに関わり,) 身近なことから実践したい」という趣旨のコメントが増えるなど、生徒が持続可能な社会の形成に向けて関心や意欲をもち始めている。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

持続可能な社会の形成者として必要な資質や能力の育成
 ～教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して～

(2) 研究主題設定の理由

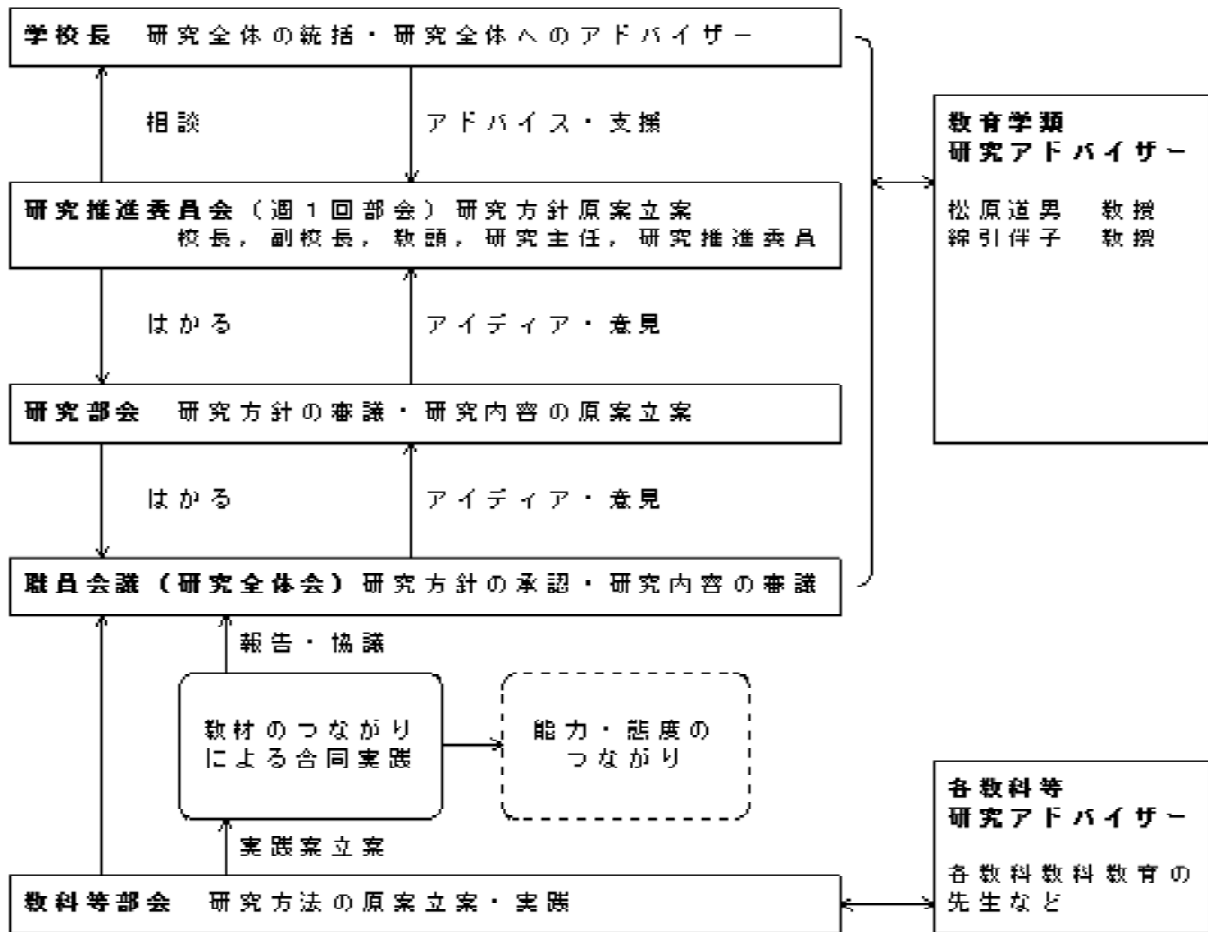
次に示す本校の課題意識や研究成果を踏まえ、E S Dの推進に当たり、各教科等を実践の柱に、教材の「つながり」や能力・態度の「つながり」を、学校全体のカリキュラムに位置付けるなどして、学校全体で体系的に行えば、持続可能な社会の形成者として必要な資質や能力を育成するモデルケースとして成果をあげることができると考え、研究主題として設定した。

〔課題意識〕本校の教育目標は「自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する」である。これはE S Dの視点に立った学習目標「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う」と深く関わっており、E S Dの研究を進めることで本校の教育目標にも迫れること

〔研究成果〕本校はこれまでに「問題を解決するための思考と手立て」についての研究を進めており、各教科等の思考力・判断力・表現力等とE S Dとの関連を考えながら研究を進める素地ができていくこと

(3) 研究体制

◆ 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢大学教授松原道男氏を招いてのE S Dについての学習会 (4月) ・能力・態度に関する第1回生徒アンケート実施 (5月) ・金沢大学の各教科担当教員を助言者としたE S Dに関する校内一斉研究授業 (6月) 第1回 教材の「つながり」を目指したワークショップ (6月) ・国立教育政策研究所 (以下, 国研という) 担当官を招いての研修会・研究授業 (7月) 金沢大学教授綿引伴子氏からE S Dの授業についての指導・助言 (7月) 第2回 教材の「つながり」を目指したワークショップ (7月) ・E S D-J 理事鈴木克徳氏を招いてのE S D学習会 (8月) 第3回 教材の「つながり」を目指したワークショップ (8月) ・E S D校内研究授業 保健体育科 (10月) ・国研担当官を講師とする教育研究発表会開催 (11月) 能力・態度に関する第2回生徒アンケート実施 (11月) ・研究全体会で本校教育研究発表会についての振り返り (12月) E S D校内研究授業 社会科 (12月) ・国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会にて研究成果を発表 (2月) ・研究紀要刊行 (3月)
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

初年度は教科間のつながりを重視したカリキュラム開発を目指して研究を行い、それを能力・態度の「つながり」へと発展させていくことにした。

具体的には、

- ① 国研が提唱する3つの「つながり」のうち、「教材のつながり」に重点を置いて年間指導計画を基に複数の教科で合同実践する。
- ② 実践の成果を基に、カリキュラムマップ（時系列よりも教材のつながりを重視したカリキュラム配列表）を作成する。
- ③ 生徒アンケートを実施し、教科等の思考力・判断力・表現力等との関連を考えながら、能力・態度のつながりを意識してカリキュラムマップを再編成し、次年度への実践につなげる。

(2) 具体的な研究活動

①-1 教材の「つながり」を目指したワークショップの開催

6月、7月、8月にそれぞれ30分ずつ開催した。各教科の実践のアイデアを付箋に書き出し、同じような内容をまとめていく。7月は国研担当官来校の日に行い、指導を受けた。

6月のワークショップでは、アイデアを書き出しただけで、そのアイデアのレベルや、ESDと関連のある教材かどうかがよく分からなかった。そこでその問題点を洗い出し、7月に担当官にその問題点をもとにワークショップの指導を受けた結果、8月には話し合いの論点が明確になり、実践の方向が見えてきた。

①-2 ESD研究授業の開催

6月 授業検討会の開催 各教科等で1つずつ実験授業を行った。まずは各教科等で、ESDを意識した教材を考えて実践してみることから始め、それぞれ金沢大学の各教科担当教員からも各教科等で助言を受けた。

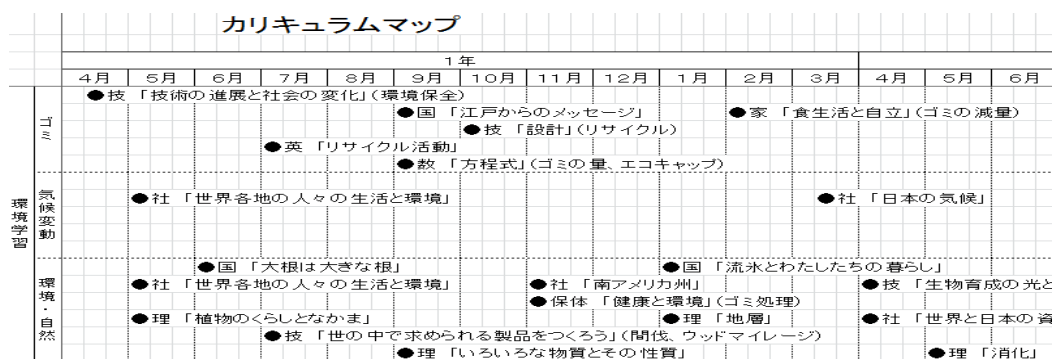
7月 国研担当官を招き、技術・家庭科（家庭分野）において研究授業を行った。食をテーマに、今自分にできること、マイ・アクションプランを題材にした授業だった。教材の「つながり」のきっかけになる教科の実践を共有することで、他の教科等がつながりをもちやすくなるを考え、後の英語科の実践へもつながっていった。

10月 保健体育科で校内研究授業を行った。ハードルを題材に、理科における運動とのつながりや、インターハイ全国2位の先輩の走りに学ぶなど、人の「つながり」も意識した内容を実施した。

11月 国研担当官を講師に教育研究発表会を開催した。16の研究授業を行い、広く県内外の参会者に意見を求めた。また、22名の職員が自身の実践についてポスターセッションを行い、ESDの授業実践について、参会者や金沢大学学校教育学類との意見交換を行った。教材の「つながり」としては、国語科と美術科が挿絵を題材に表現の多様性を用いた授業を行ったり、理科と社会科が環境問題についてそれぞれの教科の視点から学習を行ったり、英語科で環境問題を取り上げたことを基に、家庭分野がライフスタイルの見直しを考えたりする授業を行った。

②カリキュラムマップの試作

本年度については、次頁に示すように、分野別に連携できそうな内容をまとめた。



③生徒アンケートの実施

5月に行った項目と同じ項目で、能力・態度に関するアンケート調査（後述）を行った。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・5月と11月に実施した生徒アンケートの比較から、「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」については、それらの力を用いようとする生徒が増えた。
- ・生徒アンケートには、ESDについて「身近なことから実践したい」というコメントが多数（466人中296人）書いてあり、多くの生徒が持続可能な社会の形成に向けて関心や意欲をもっていることが分かった。
- ・教材の「つながり」については、教科間で連携しようとする職員の意識が向上した。また、複数の教科間で連携し、ESDを題材とした具体的な授業実践を試みることができた。

(2) 課題

- ・生徒アンケートの結果の比較から、「未来像を予測して計画を立てる力」や「つながりを尊重する態度」については、ESDに関する学習が進むにつれて、難しさを感じている生徒が多く、その要因分析と改善の手立てが必要である。
- ・同じく生徒アンケート結果から、今後実践していきたい内容として296名中199名の生徒が環境系の事柄を挙げるなど、ESD＝環境教育というイメージが定着している感があり、今後、生徒の多角的なものの見方と取り上げる実践の分野を広げていく必要がある。
- ・教科等の思考力・判断力・表現力等との関連については、各教科等で意識をしているが、全体での共有や能力・態度へのつながりが十分なものとなっておらず改善を要する。

(3) 研究2年目へ向けての取組

- ・上記の課題改善に加えて、まずは、本校の教育目標や、目指す生徒像に迫るように、各教科等が分担する「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を整理する。その際、各教科等の思考力・判断力・表現力等と能力・態度のつながり、さらにはそれを全体でどの教科がどの部分を分担しているか、整理し共有する必要がある。各教科等が協力して、持続可能な社会の形成者として必要な資質や能力の育成にあたる。
- ・能力・態度を位置付けることも含めて、分かりやすく、使いやすいカリキュラムマップを目指す。現在のものは考えられる内容を全て羅列したために情報が多すぎて見づらいため、カリキュラムマネジメントを行いながら、次年度は実際に実践可能なものを精選し、よりよいカリキュラムマップの作成を目指す。
- ・能力と内容のつながりを視野に入れて、教科間の連携をさらに進め、資質や能力の育成を図り、教科の力にどのようにつながったか検証を行う。